

[TRANSIT 2013 香港 ⇄ 名古屋 ⇄ イギリス]

[TRANSIT 2013 Hong Kong ⇄ Nagoya ⇄ Britain]

名古屋造形大学主催 現代美術国際交流展 報告

International exchange contemporary art exhibition Report

平林 薫

Kaoru Hirabayashi

2001年より毎年、名古屋造形大学主催の国際交流展を企画してきた。相手校の国や地域文化にも関わり、卒業と入学を繰り返す参加学生の資質と特性を探しながら行ってきた。

ある者はスーツケースに入るサイズの作品を考え、またある者は材料を現地調達、旅のインスピレーションがアイデアとなり、相手校の学生、スタッフの援助、参加によって現地制作された。

その不自由な、あるいは自由な条件は、参加学生にとって初めての体験となる。

初めて見る外国、初めて対面する外国人、予想はしていたもののその刺激とチャレンジの連続体験は、新たな価値観の入れ替えへと繋がる。観光会社がアレンジした、名所旧跡をめぐるツアーに参加したのとは大違い、その小さな自己改革は、やがて芽吹くであろう可能性の種を受け取る勇者を育ててゆくのだ。

この交流プログラムの体験は、自己表現の展開、アーティストとして生きて行くことへの自覚、本格的な留学活動など、様々な原動力へと繋がって行く。

たった10日間の国際化は、今の自分の大きさを知る大切な機関でもある。

2013年は展覧会が3回も企画され、今までで最も忙しい国際交流展の年となった。参加校も香港(中国行政自治区)、ドイツワイマール、イギリスハートフォードシャー、と3カ国とのやり取りが行われ、役割分担と数えきれない回数の学生とのミーティングを行った。

学生の作品の選出、制作の指導進行もさることながら、交流企画の具現化と実行を目指す。

[TRANSIT 2013]は、言葉の壁を越え、人と人であるという暖かさを実感する。真の意味で人間力を養う学習プログラムと言ってもよい。

2013年の展覧会の行程は以下のものであった。

3月名古屋造形大学学生による2週間にわたる、香港バプティスト大学での展覧会研修を行った。

11月には提携校であるバウハウス大学(ドイツ/ワイマール)Liz Bachhuber教授のから招待を受け、学生作品のみを当地に輸送する事となった。世界遺産であるHaus am Hornが展示会場となり[TRANSIT 2013 in Weimar]が、現地学生とスタッフの手により開催された。

また12月には名古屋にて、香港バプティスト大学の14名の学生、教員1名。イギリスハートフォードシャー大学より6名の学生、2名の教員を招き、名古屋造形大学内ギャラリーと市民ギャラリー矢田にて、国際交流展を開催した。

ここでバウハウス大学での展覧会のことについてふれるとページ数が不足してしまうので、次の機会に述べることにし今回は割愛しようと思う。

[TRANSIT in 香港 ← 名古屋]

開催日時:2013年3月9日(土)～3月17日(日)

10時～18時

開催場所:香港バプティスト大学

Koo Ming Kown Exhibition Gallery

3月1日(金)から3月10日(日)まで香港に滞在、展覧会を開催、香港バプティスト大学の学生、教員と、有意義な交流を行った。

すでに短期交換留学の提携を取り交わしている香港バプティスト大学であるが、今回の国際交流展は2度目となる。3年制から4年制大学に切り替わり、この7年間に教員の数も倍増し、総合大学として発展を遂げている。以前の郊外型校舎から街の中心部にある都市型大学に校舎は移行し、すばらしい設備のギャラリーで展示する事が出来た。

高度成長期の経済自治区の香港は、地下鉄がはり巡らされショッピングタウンにはブランドショップが建ち並ぶ。中国本土からの留学学生も非常に多い。

香港で開催されていたアンディー・ウォール展を見学、旅の後半数日の北京研修を行い「798芸術区」を見学した。ニューヨークのSOHO地区を思わせる倉庫を改造したギャラリー群のスケール感に圧倒された。ルイズ・ブルジョワの大回顧展を鑑賞する事が出来た。

言葉の壁の問題もあるが、今後学生をどのように育てて行くのか。

我々の夢の在処と、芸術教育に対する具体性が問われる時代になって行くだろう。

参加学生にとっては、収穫の大きい研修となったと確信する。



写真では日本人と香港人の見分けがつかないが、名古屋造形学生は英会話にチャレンジ。香港学生と日本人学生のパートナーを決め、マンツーマンで面倒を見てくれた。

初日、制作場所として提供されたアトリエに案内され、ピーター・ベンツ教授の個人相談を受ける。

現地での材料調達、制作の協力、会場の搬入手伝い、すべて暖かいサポートがあり実現された。



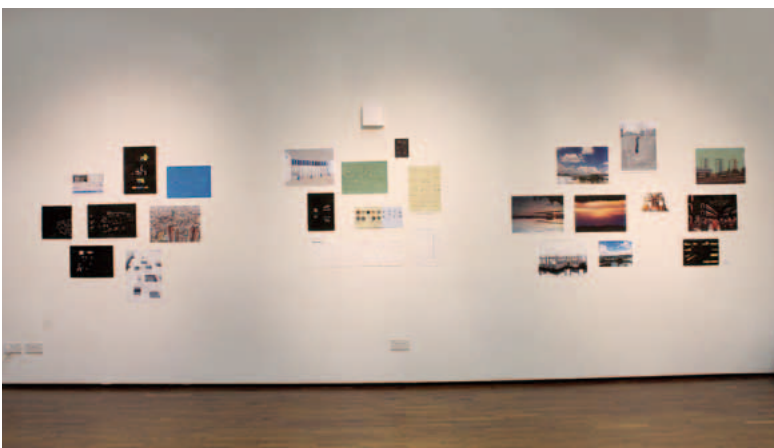
香港で開催中のアンディ・ウォーホルの大回顧展を見学できた。





オープニングのレクチャーは、日本語の出来る香港学生によって通訳された。
決して充分ではないが、それ以上に交流とはいったいなんだろうかと気付かされた。

オープニングでのお茶を振る舞うパフォーマンス。
指導教員であるピーター・ベンツ教授が自ら参加された。
学生自作の器は現地の協力者にすべて譲られた。



街路樹の木の葉を使ったジュエリーイメージの学生作品。現地の問屋街を散策して、でこれらのパーツを購入し、そこからのインスピレーションで制作された。

香港の広告チラシを塗りつぶしたドローイングを、現地制作したもの。
いずれも香港に出向かなければ、このひらめきは得られなかった。

「TRANSIT 2013 in 名古屋 国際交流展」

12月9日(月)～13日(金)大学内 D1,2,3ギャラリー

16日(月)～20日(金)大学内 D1,2,3ギャラリー

17日(火)～23日(月)名古屋市民ギャラリー矢田

参加者：香港バプティスト大学14名、イギリスハートフォードシャー大学6名、名古屋造形大学36名、参加学生総勢56名、会場が3カ所に渡り、大規模な展覧会となった。

香港の学生を名古屋国際空港で出迎え、またイギリス学生は東京からの入国であったため、新幹線でやって来た彼らを出迎えた。初日の晩、名古屋造形学生とのパートナーミーティングをかねた、大夕食会から始まった。

大学オリエンテーションを行い、学生は版画と陶芸のワークショップに参加した。交流のシンポジウムやパーティー、犬山へバスツアー、参加学生によるギャラリートークなど、盛りだくさんの企画であったが、我が校の学生の献身的なサポートで、そのすべてが行われた事は、言うまでもない。

展覧会のオープニングに行われた映像を使った大学紹介では、香港のピーター・ベンツ教授、イギリスのショーン・ボルストローク教授、リチャード・アダムス教授にレクチャーをお願いし、参加学生の自己紹介で大いに盛り上がった。

またこのイギリスハートフォードシャー大学の両教授は、グラフィックデザインとプロダクトデザインの授業に参加され、今後のデザイン分野の新たな交流のきっかけを作る事に成功したと思う。

名古屋造形大学学生たちは、来日前よりサポート体制を想定し、入念なミーティングを行い、交流プログラムの計画を立てて来た。

言葉のハンディーを軽減する為にメールでのやり取りを開始し、各イベントの学生の役割分担と準備態勢を作った。

また「TRANSIT」サイトを立ち上げ、参加者のアーティストステートメント読み込みにより、作品テーマや背景のコンセプトを理解する作業を行った。

外国人学生に対してグループを作りサポートの充実を図る工夫、出品作品の翻訳、オープニングやギャラリートークなどの英語通訳は、海外経験のある学生や短期交換留学生などの、熱意あるサポートにより遂行された。

もちろん現地制作の学生作品は専任教員の指導を仰ぎ、旅先でのアイデアも盛り込まれ完成されたと思うが、言葉のハンディーがあるなか「人と人である」という実感と喜びを、サポートする側である我々ははっきりと感じ取ったと思う。

この様々な交流を通し、参加学生が多くを学びあえた事は、大変意義深いものであった。提携校としてお互いの交友関係を深め、芸術表現を通し高めあえた経験は、学生それぞれのいわば、人間力を呼びさます、大きな力となのりえたと確信する。



オープニングパーティーでの自己紹介

香港バプティスト大学のピーター・ベンツ教授と学生14名



イギリスハートフォードシャー大学は、今年交流提携したばかりの大学だ。ショーン・ボルストローク教授、リチャード・アダムス教授率いる6人のプロダクトデザインの学生がやって来た。



香港のピーター・ベンツ教授は8度目の来日、早稲田大学に一年間留学経験のある奥様も、3人の息子さんを連れ来日された。このカップルは共にドイツワイマールバウハウス大学の御出身。TRANSIT 2003 以来の長い交友関係にある。7年前に香港の大学に移られてから、本校は香港バプティスト大学とも提携を交わしている。いわば彼は交流の立役者である。



学内ギャラリーの倉庫を暗闇にして、その中で描かれたドローイングの学生作品。集中ができない事を心配したが、搬入のための備品を取り出すたびに、制作を中断され目隠しをして扉を開けてくれた。



名古屋造形の学生の体に直接、荷造り用の透明テープを巻き付け、その型取った人体をギャラリー天井部に取り付けたインスタレーション。

作者はテーマと展示方法を何度も現場で試行錯誤していた。学内での制作は何時間も相手を拘束してしまうが、楽しいコミュニケーションの時間を作り出す事に成功したようだ。3月の名古屋造形大学の香港研修の折、献身的にサポートしてくれたこともあり、お互いは新たな友情関係を育んだ。

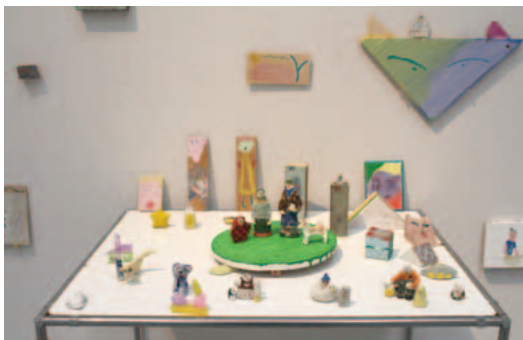
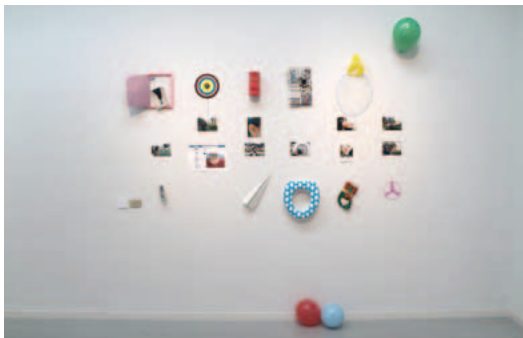


「あなたの10年後にメッセージを送る」というテーマの中国大学生の写真作品。

メッセージの翻訳は大変苦労した。

彼女が名古屋市内で撮影製作中、一組のカップルの男性が「結婚している」とメッセージを書き、相手にプロポーズしたという。





名古屋市民ギャラリー矢田での展示風景

香港男子学生の自作のジャケットの作品。
この研修期間中ずっと、どこに行くのもこのジャケットを持ち歩き、
旅のメモリを染み込ませていた。





イギリス ハートフォードシャー大学のインスタレーション。
それぞれ3Dコピーで制作したモデルを持参して来た。

旅の期間中に制作した、日本の町のイメージドローイングには、
有名企業のロゴ、名古屋市市のマーク、都内で買い求めた切符の
印字をドローイングしたものなど。
漢字文化圏を初めて旅行するヨーロッパから来た若者たちは、
いったい何を捉えたのだろうか。文字を文様や図形のように解釈
していることが、私の目にはとても新鮮に映った。



漫画コースの男子学生の作品が新鮮に感じた。



謝辞

[TRANSIT 2013 香港 ⇄ 名古屋 ⇄ イギリス]

このプロジェクトの実現にあたり多大な協力を得ました、参加教員の皆様、学生の皆様、大学、関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。